

新しい生活様式のもとでの大学授業の実態と意識に関する全学調査

2. 教職員調査 報告書

調査の概要

九州大学では、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言を受けて、令和2年度春学期および夏学期のほぼ全ての授業を遠隔で実施しました。これに関連し、同年9～10月、以下の観点で、全学の教職員を対象にアンケート調査を行いました。(回答者数：2,859名(教員1,119名、職員1,740名)、回収率26.2%)

- ・オンライン授業の実施状況
- ・オンライン授業に対する姿勢
- ・教材作成に関して
- ・ユニバーサルデザイン・合理的配慮関連
- ・事務職員、技術職員等への質問

調査の結果は次頁以降にまとめていますが、今後、大学がオンライン授業を一部実施することについては、多数の教職員より積極的な意見が見られました。オンライン授業における理解度に関しては、「対面よりも良かったと思う」と「対面とほぼ同じだと思う」の計が5割弱となり、一定程度教育の質が担保されたと考えられる反面、「対面よりも悪かった」とする回答も2割強となりました。また、授業の評価については、約6割が「適切に行えた」とする一方、「例年と同じように評価しようとしたがオンラインでは難しかった」「例年と異なる指標を評価することになった」という回答も約35%見られ、別の設問では、授業の教育的な意義や価値観等が損なわれたという声も約4割見られました。

以上のことから、今後の九州大学の教育においては、対面授業の意義等を十分に踏まえた上で、遠隔授業の形式そのもの、もしくは、遠隔授業に用いられる教育手法を効果的に取り入れることが求められていると考えられます。

なお、本調査の結果をもとに実施したオンライン授業のグッドプラクティス収集の結果は、インタビュー記事や動画として以下で公開していますので、併せてご参照いただければ幸いです。

九州大学教育改革推進本部：<https://ueii.kyushu-u.ac.jp/pages/online-lessons.php>

九州大学基幹教育院次世代型大学教育開発センター：

オンデマンド型：<https://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~cfde/archives/1297>

リアルタイム型：<https://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~cfde/archives/1335>

調査結果（詳細）

調査回答数（回収率）：教職員 2,859 名（28.8%）（教員 1,119 名（34.0%）、職員 1,740 名（26.2%））

（回答者の内訳）

教職員	2,859 名
教員合計	1,119 名
うち代表教員として授業担当	691 名
うちオンライン授業担当	673 名
職員	1,740 名
うちオンライン授業関与	287 名

調査期間：2020 年 9 月 29 日～10 月 16 日

- オンライン授業の実施形態としては、ライブ形式が最も多かった（質問①）
- 例年であれば講義形式（中規模：50 名程度）として実施されている授業が前期には最も多くオンライン授業として実施されていた（質問③）
- オンライン授業では、Moodle¹がもっとも多く使われ、次に Zoom、Teams がほぼ同程度使われていた。その他の Web 会議システム (Skype for Business、Webex) や Mahara、BookQ の利用率はおよそ 15%未満であった（質問④）
- 授業は自宅と大学双方において行われたケースが多かった。（質問⑤）
- 出席は Moodle の出欠ブロック²の利用や提出物で確認されることが多かったが、ビデオ画面上の顔を見ての確認が 20%程度の授業で行われていた。（質問⑥）
- 授業を開講中の教員側のネット接続の問題は、講義全体のうちの 12%であった。また、この割合は、ライブ形式の授業で、オンデマンド授業よりも多く起きていることも確認された。（質問⑦）
- 教員の認識として、オンライン授業として実施することで、「この授業が本来有していたであろう教育的な意義や価値観、機会が損なわれた」とされた授業の割合は約 40%であった。（質問⑧）
- 授業の評価方法については、「レポート等」が約 63%、「オンラインでの試験等」が約 23%であった。オンデマンド形式の授業においては、オンラインでの試験等を実施する割合は約 13%で、他に比べて低い割合であった。（質問⑨）
- 授業の評価に関しては、約 58%は例年と同様適切に行えたとの回答があったが、一方で「例年と同じように評価しようとしたがオンラインでは難しかった」が約 17%、「例年とは異なる指標を評価することになった」も約 18%見られた。（質問⑩）

¹ オープンソース LMS (Learning Management System)。LMS とは、学習運営システム（または学習管理システム）のこと。

² Moodle の持つ機能の一つ。出席管理用のモジュールのこと。

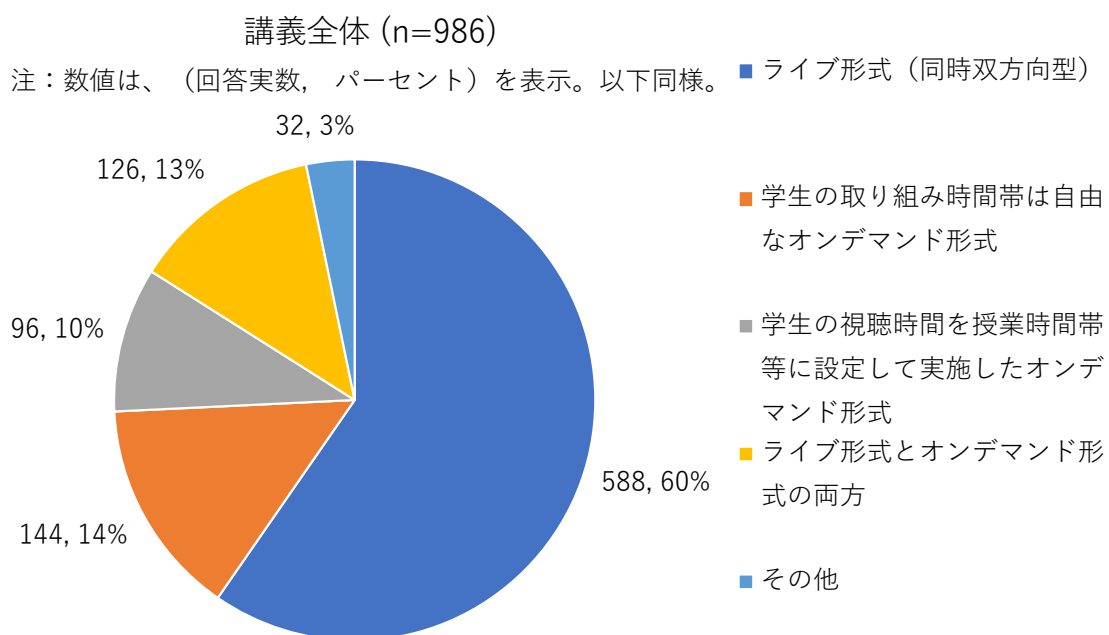
- 学生の理解度に関しては、過去と比較して「対面とほぼ同じだと思う」が約 39%と最も多かった。一方で、「対面よりも悪かったと思う」が約 21%、「対面よりも良かったと思う」が約 10%の回答であった。(質問⑪)
- 教員自身のオンライン授業に対しての姿勢は、肯定的な回答の割合が約 46%であるのに対して、否定的な回答の割合は約 28%であった。また、職階による顕著な差は見られなかった。(質問⑫)
- 大学として今後オンライン授業を一部実施していくことへの教員の受け止めについては、肯定的な回答の割合が約 70%であるのに対して、否定的な回答の割合が約 16%であった。また、職階による顕著な差は見られなかった。(質問⑬)
- オンライン授業の準備として、80%以上の教員がパワーポイント教材を作成しており、また、3割の教員がオンラインでのテスト(小テスト、クイズを含む)を活用した。(質問⑭)
- 今後の教材作成に関しては、約 30%が講義の録画や映像教材の作成を指向していた。しかし、パワーポイントファイルの講義科目担当教員間での共有については消極的(11~25%)であった。(質問⑮)
- 前期に代表教員³として担当した授業の数は、1科目と2科目がほぼ同じ割合で約 31%である一方、4科目以上の教員も約 22%見られた。前期にオンライン授業を代表教員として担当した授業の数も、1科目と2科目がほぼ同じ割合で 31%、一方4科目以上が 21%であり、担当授業数には教員間でも差があることがわかった。(質問⑯⑰)
- 授業でのユニバーサルデザイン・合理的配慮に関しては、資料のアップロード(68%)、明瞭でゆっくりとした話し方(48%)、重要情報を口頭のみならず Moodle 上で視覚的に提示(44%)などの対応が行われていたが、ユニバーサルフォントの使用(8%)、色覚の多様性に対応した色使い(13%)、説明時の適切な指示語の使用(19%)など、申請が無くとも取り組まれた事項はあったものの、今後も継続的な改善に取り組む必要があることがわかった。(質問⑱)
- 職員のオンライン授業への関与は、主に「学生への周知等」「教員への周知等」「授業運営(教員)補助等」であった。(質問⑲)
- 職員の意見では、オンライン授業の導入・実施に積極的な回答が約 59%、消極的な回答が約 17%となっており、積極的な意見が多い傾向にあると見受けられた。(質問⑳)
- オンライン授業の実施に関して大学に求める改善点としては、「通信環境に関して」「遠隔会議ツールに関して」「学内 LMS に関して」「授業運営に関して」「学生に対する支援」「非常勤講師への支援」など計 65 件の指摘があった。(自由記述項目 1)
- オンライン授業のグッドプラクティスについては、自薦・他薦あわせて多数の情報提供があった。(自由記述項目 2)

³ 複数の教員が担当する科目における取りまとめ担当者(主担当)のこと。

調査データ

【授業の実施形態】

- ① <質問>代表教員として担当された科目について授業形式別にお聞きします（最大3つ）。主にどのような形式で実施しましたか。



オンライン授業の実施形態としては、ライブ形式が最も多く、続いて、オンデマンド型、ライブとオンデマンドの併用型、時間を指定してのオンデマンド型となっていた。

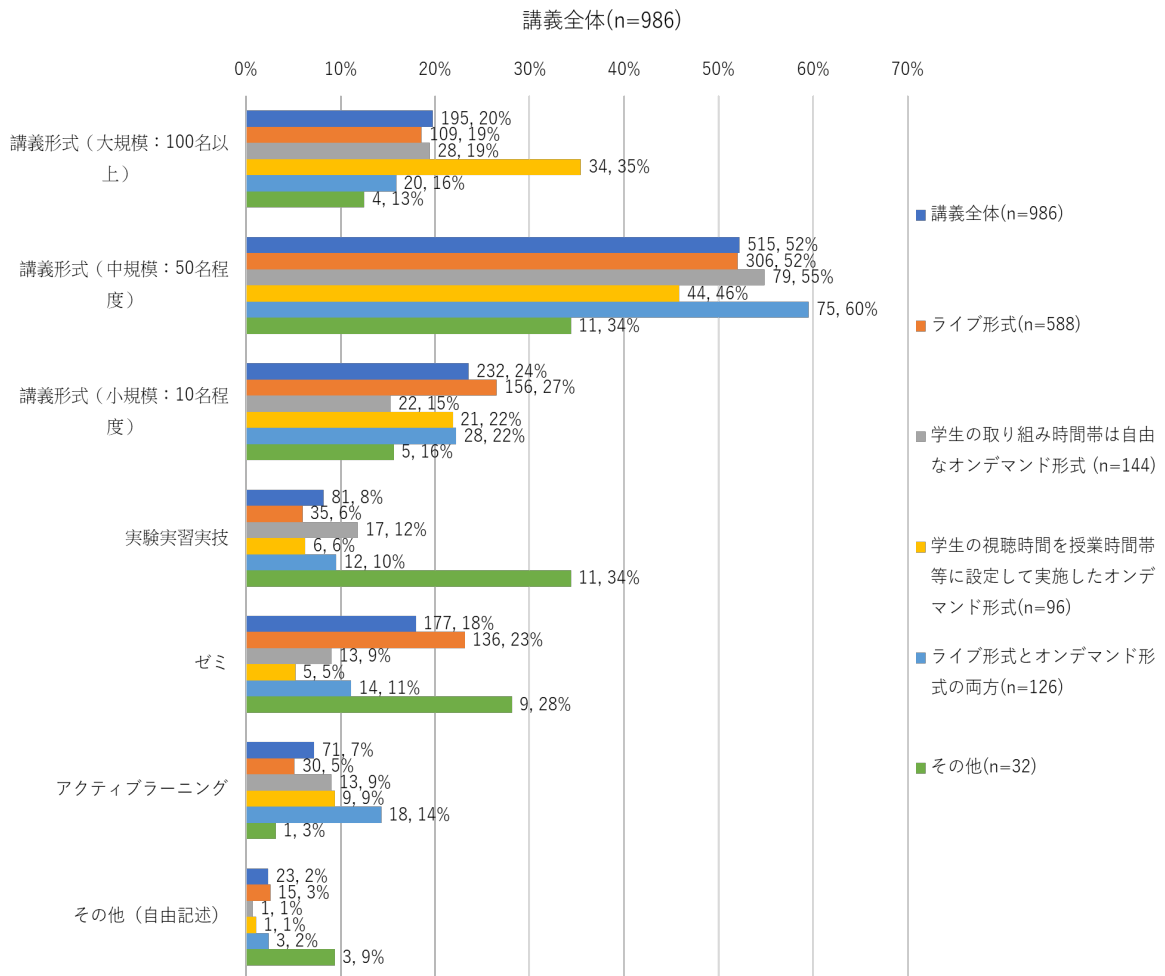
【授業の実施形態】

- ② <質問>授業を実施した学部・学府等を選んでください（複数選択可。また、基幹教育で開講した授業は「基幹教育」を選択してください。）

基幹教育	275	統合新領域学府	23
工学部	162	生物資源環境科学府	22
農学部	72	教育学部	18
理学部	71	経済学府	18
工学府	50	システム生命科学府	17
総合理工学府	45	数理学府	16
医学部	41	薬学部	14
文学部	37	法学府	12
法学部	35	理学府	12
人間環境学府	35	医学系学府	10
共創学部	34	上記以外の大学院教育等	10
芸術工学部	34	法務学府	9
経済学部	31	上記以外の学部教育等	7
歯学部	30	医学系学府保健学専攻	6
人文科学府	27	21世紀プログラム	4
システム情報科学府	27	大学院基幹教育	3
地球社会統合科学府	26	薬学府	3
医学部保健学科	25	歯学府	0
芸術工学府	24		

【授業の実施形態】

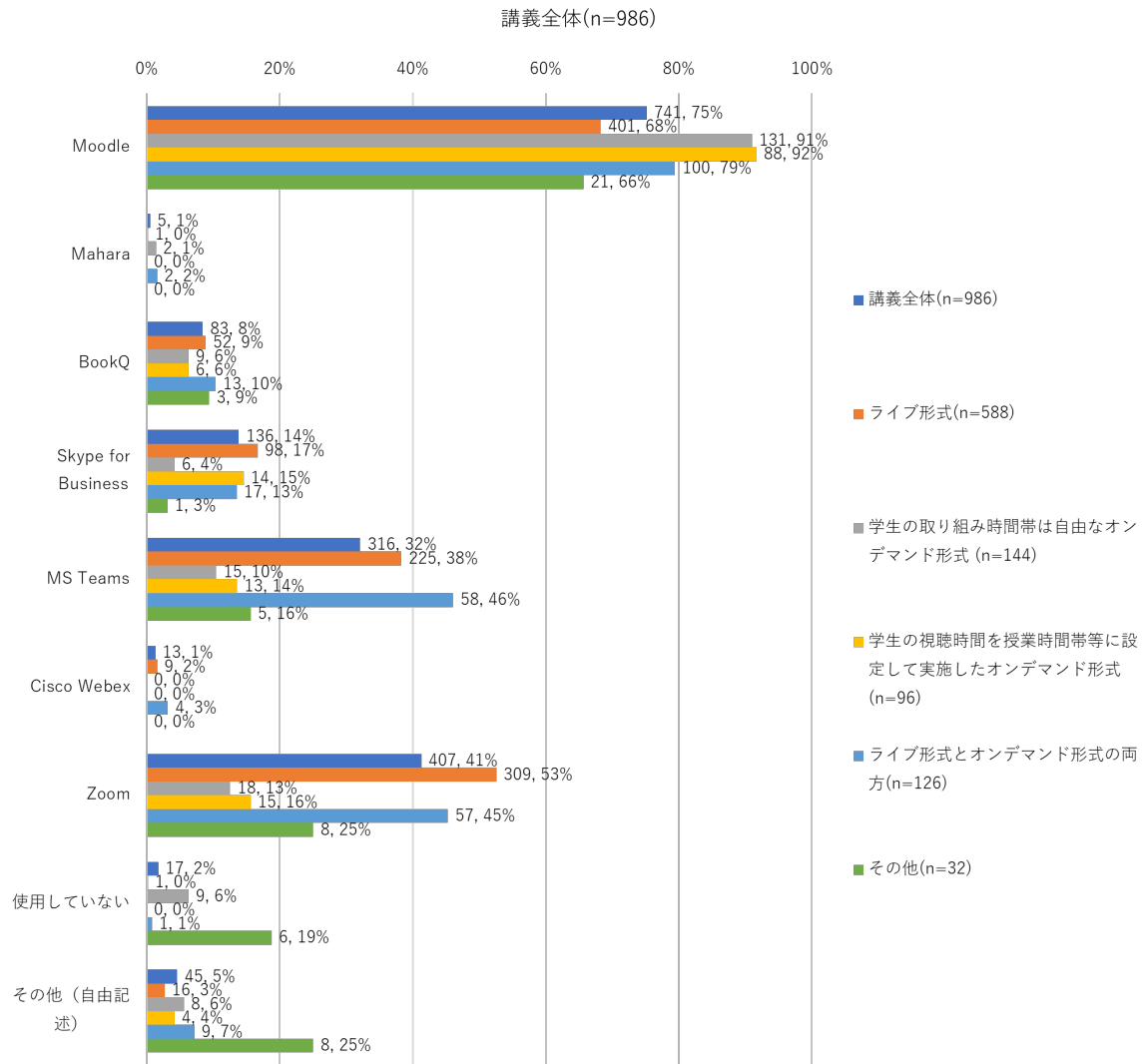
③ <質問>今回実施した形式のオンライン授業は、例年の授業形態としてはどのようなものに当てはまりますか。(複数選択可)



例年であれば講義形式 (中規模: 50 名程度) として実施されている授業が、前期には最も多くオンライン授業として実施されていた。100 名以上の大規模講義では、視聴時間を設定してのオンデマンド型講義が 35% と多く見られた。

【授業の実施形態】

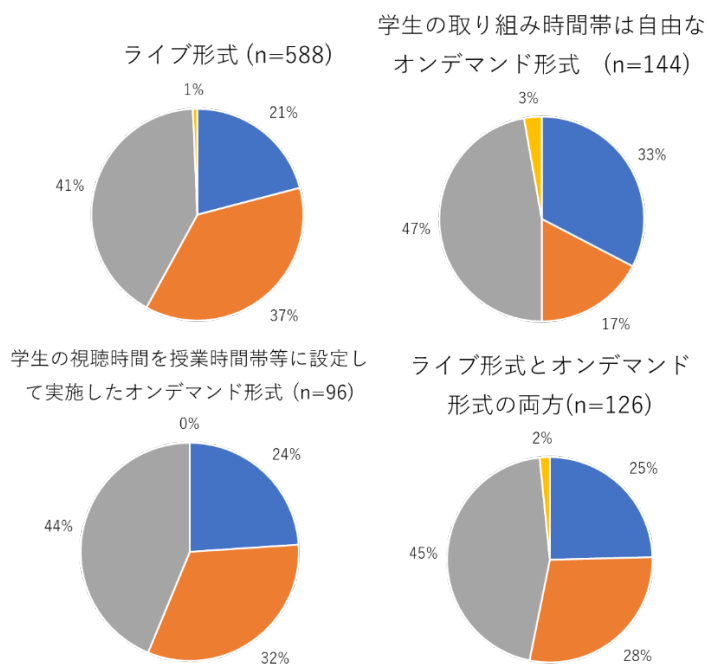
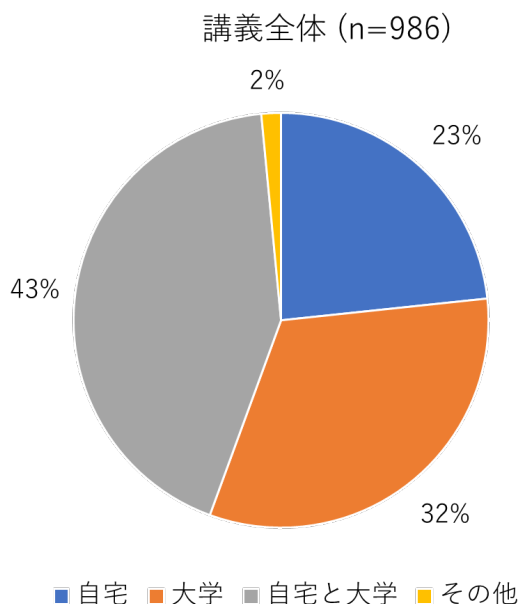
- ④ <質問> 授業で使った学習管理システム、または、ビデオ会議システムは、次のどれですか。(複数回答可)



オンライン授業では、Moodle が全体の 3/4 の講義で使われていた。また、Zoom、Teams の順に多く使われていた。その他の Web 会議システム (Skype for Business、Webex) や Mahara、BookQ に関しての利用率は 15%程度未満と、低く止まった。

【授業の実施形態】

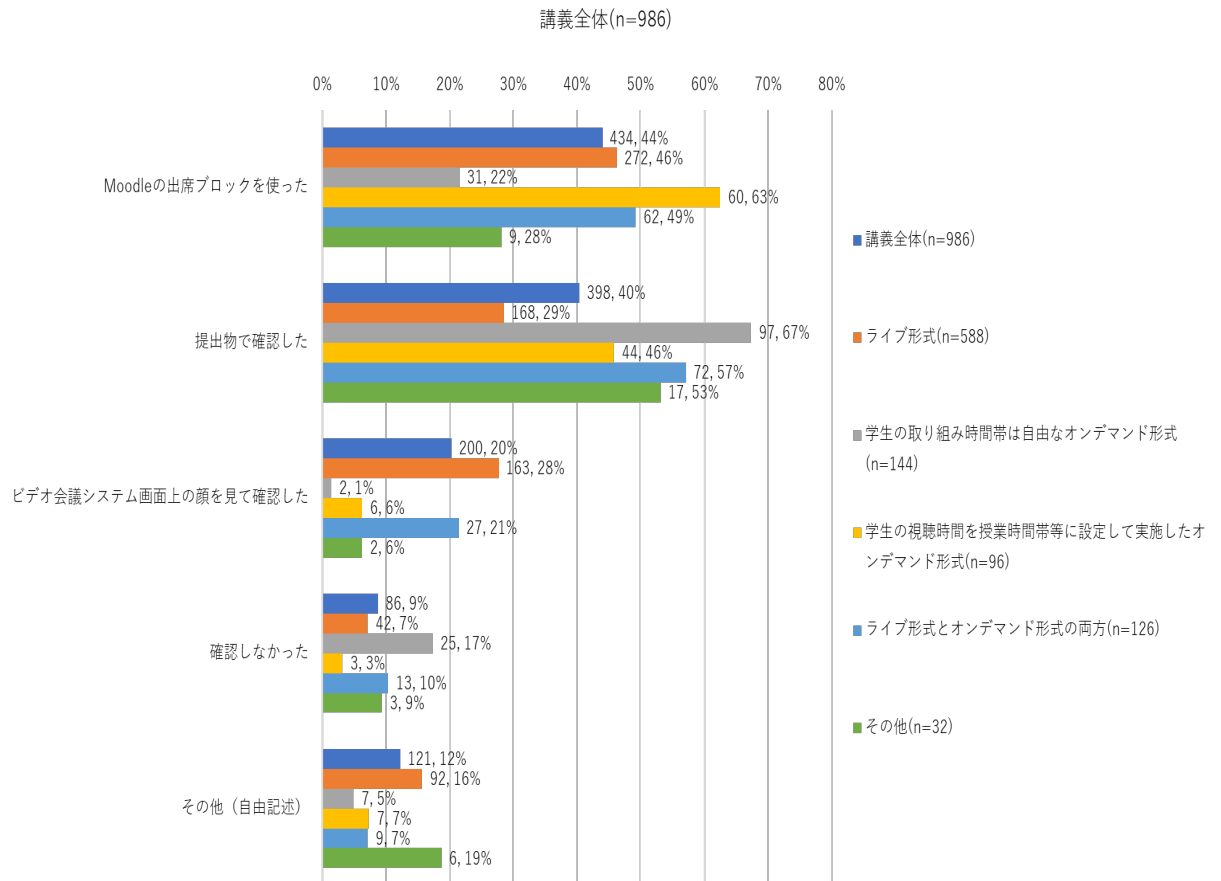
⑤ <質問>授業をどこで実施しましたか。



授業は自宅と大学双方において行われたケースが多かった。一方で、大学から授業を実施した例も多く見受けられた。

【授業の実施形態】

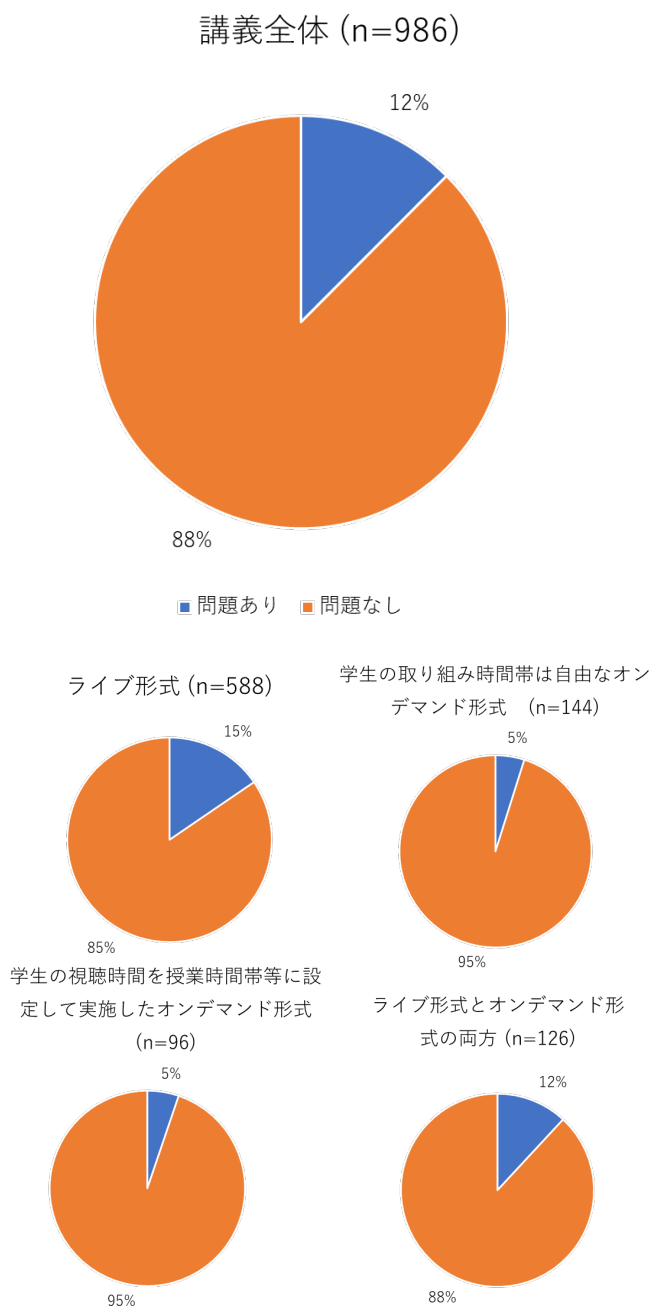
⑥ <質問> 授業で出席を確認した場合には主にどのようにして取りましたか。



出席は Moodle の出欠ブロックの利用や提出物で確認されることが多かったが、ビデオ画面上の顔を見ての確認が 20%程度の授業で行われていた。

【授業の実施形態】

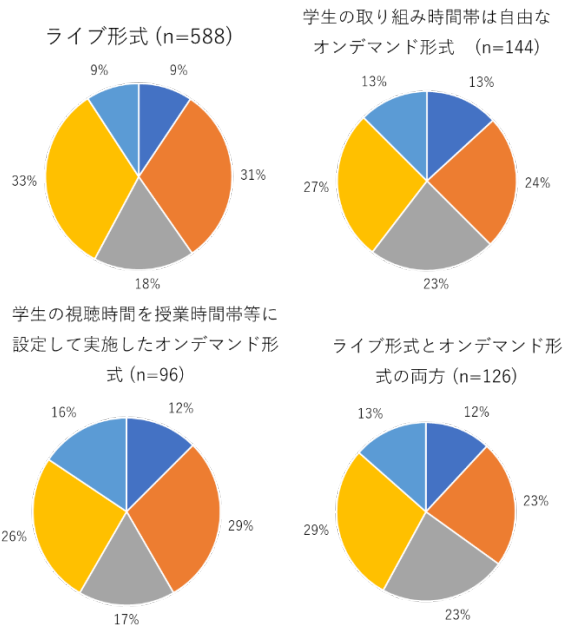
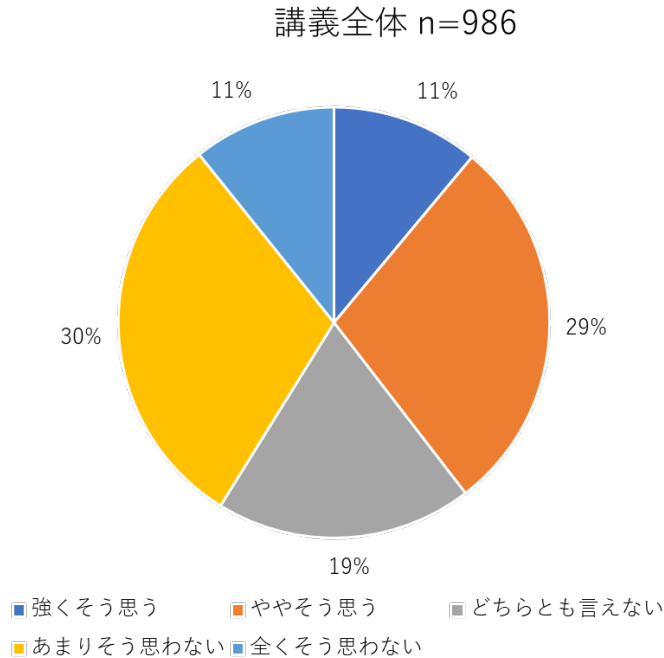
⑦ <質問> 授業を開講中に、教員側のネット接続に問題を生じましたか。



授業を開講中の教員側のネット接続の問題は、講義全体のうちの12%に上った。なお、この割合は、オンデマンド授業では比較的に低かった。

【授業の実施形態】

- ⑧ <質問> 授業をオンライン上で実施することで、この授業が本来有していたであろう教育的な意義や価値観、機会が大きく損なわれたと思いますか。

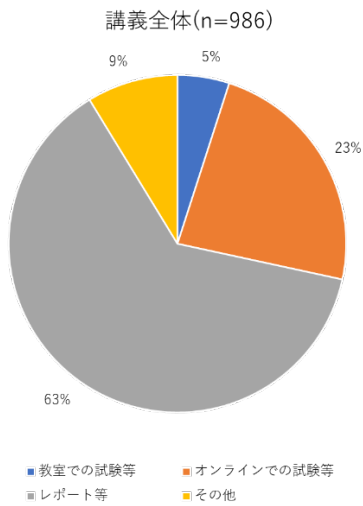


オンライン授業として実施することで、「この授業が本来有していたであろう教育的な意義や価値観、機会が損なわれた」と認識された授業の割合は40%にのぼった。

【授業の実施形態】

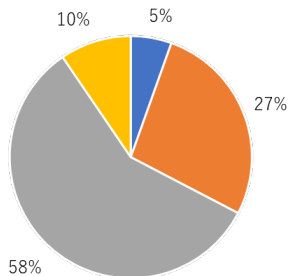
⑨ <質問> 授業の評価方法を次の中から選んでください。

(注)「試験等」とは、成績評価において主に用いられる、ペーパーテスト、口頭試問、発表、実技等、教員等に対してリアルタイムで行う場合を示します。「レポート等」とは、締め切りを設定しての、レポート、制作物等の提出物による評価を示します。

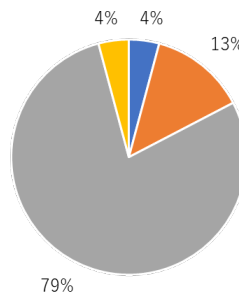


■ 教室での試験等 ■ オンラインでの試験等
■ レポート等 ■ その他

ライブ形式 (n=588)

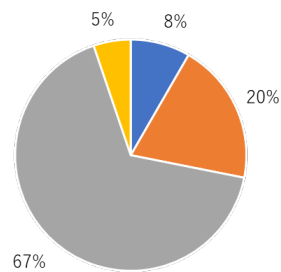


学生の取り組み時間帯は自由なオンデマンド形式 (n=144)

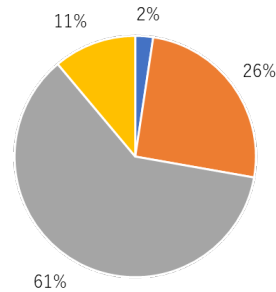


学生の視聴時間を授業時間帯等に設定して実施したオンデマンド形式

(n=96)



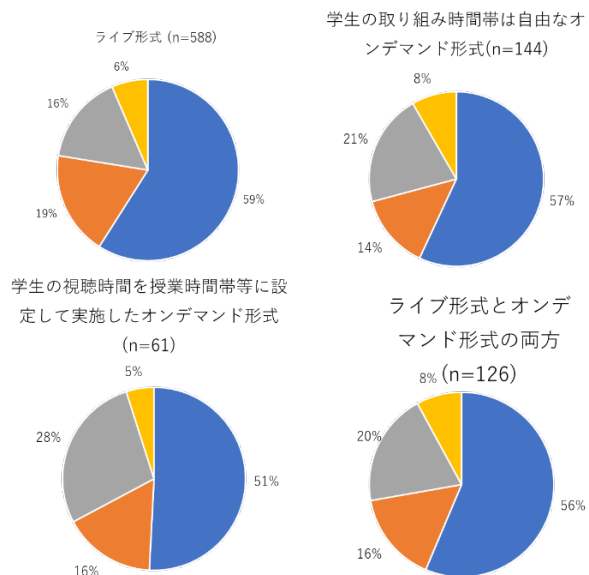
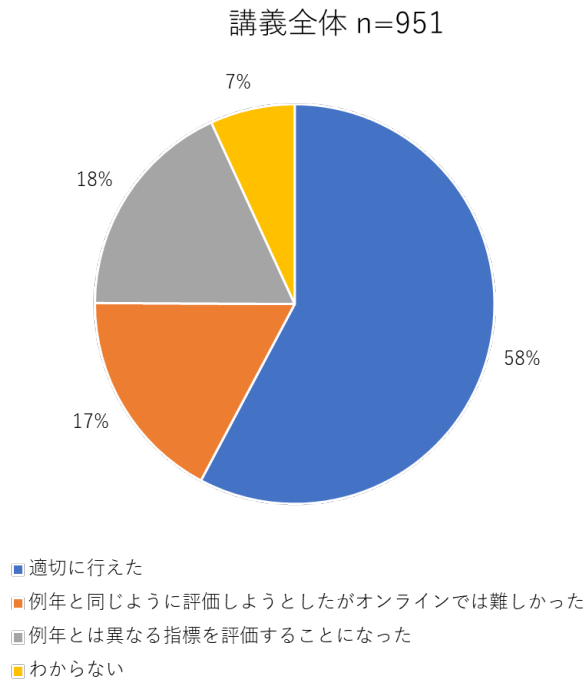
ライブ形式とオンデマンド形式の両方 (n=126)



試験の形式としては、レポートが63%、オンライン試験が23%であった。

【授業の実施形態】

- ⑩ <質問>授業の評価は、例年と同様に適切に行えましたか。(一部設問に不備があり、35 授業分のデータが含まれていません)



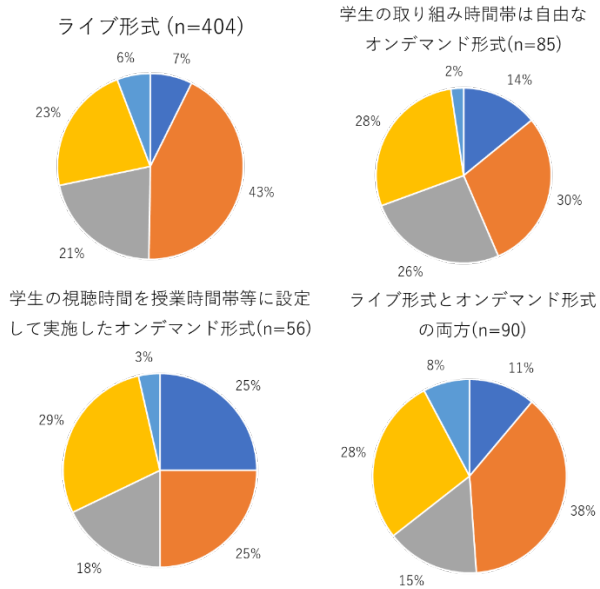
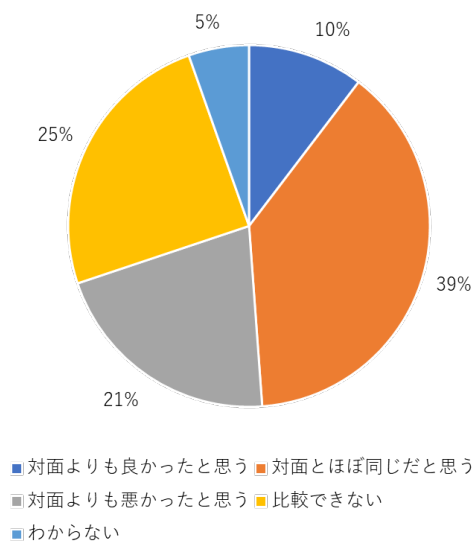
授業の評価に関しては、オンラインでの実施が困難であったものが17%、例年とは異なる指標を評価したものが18%であり、58%は適切に行えたと報告されていた。

【授業の実施形態】

⑪ <質問>『今回オンラインで実施した授業を、過去に担当したことがありますか。』
に「ある」と回答され、かつ、過去には対面授業で、そして今回はオンライン授業として開講された方に伺います。

過去に担当した場合と比較して、今回の学生の理解度はいかがでしたか。同レベルの試験問題を用いた場合など、客観的に回答可能な場合のみお答えください。比較ができない、または比較が適さないとお考えの場合は、「比較できない」をお選びください。

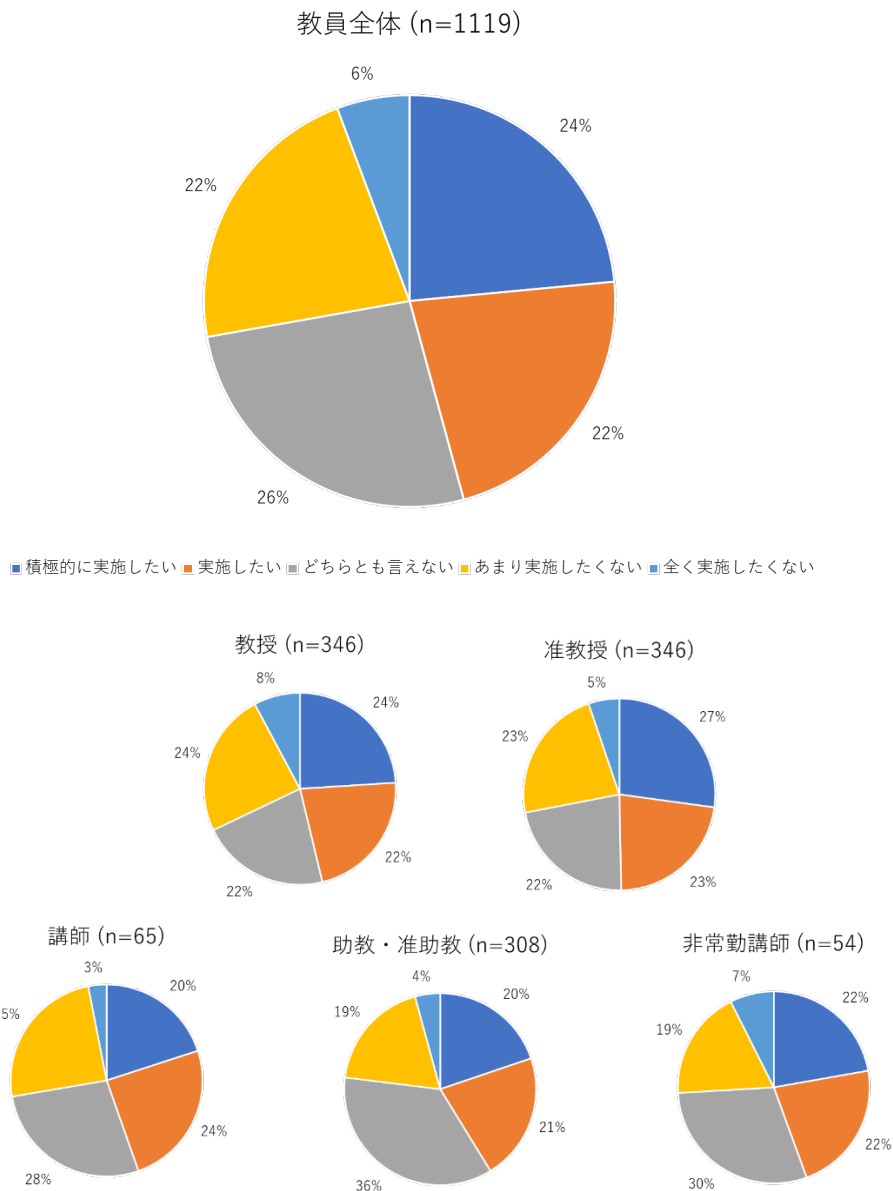
過去にもあった講義全体 (n=647)



学生の理解度に関しては、過去と比較して同程度が40%と最も多かった。一方で、「対面よりも悪かった」が「対面よりも良かった」の倍の割合であった。

【オンライン授業に対する姿勢】

- ⑫ <質問> 今後、対面授業が可能な状況下においても、あなたの授業においてオンライン授業を実施することに対して、あなたご自身は積極的でしょうか。

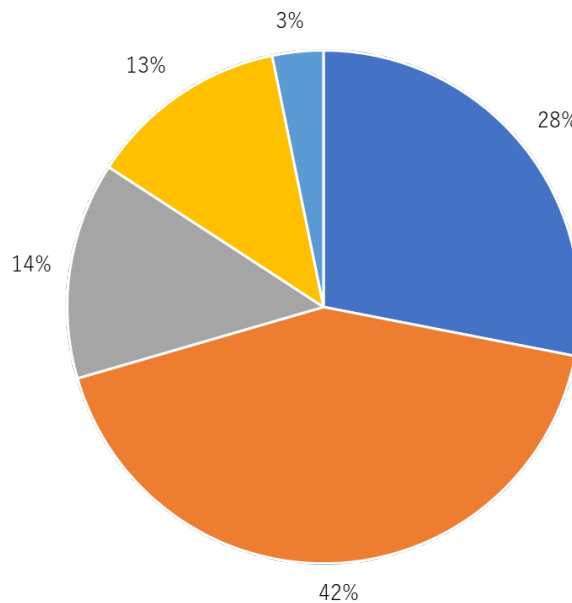


オンライン授業に対する姿勢は、肯定的な割合 46% に対して、否定的な割合 28% であった。また、職階による顕著な差は見られなかった。

【オンライン授業に対する姿勢】

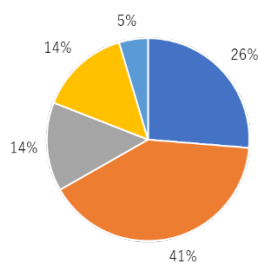
- ⑬ <質問>今後、対面授業が可能な状況下においても、大学がオンライン授業を一部実施することに対して、あなたは賛同しますか。

教員全体(n=1119)

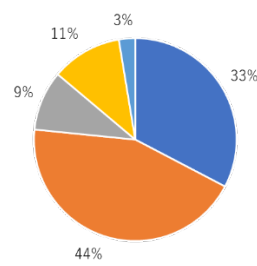


■非常に賛同する ■ある程度賛同する ■どちらとも言えない ■あまり賛同しない ■全く賛同しない

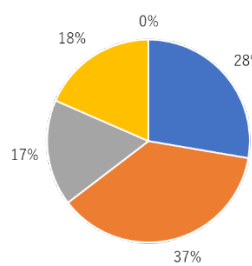
教授(n=346)



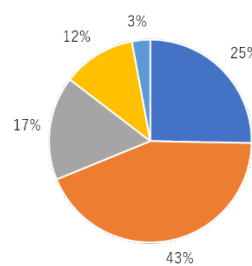
准教授(n=346)



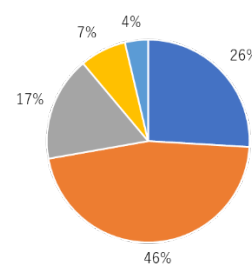
講師(n=65)



助教・准助教(n=308)



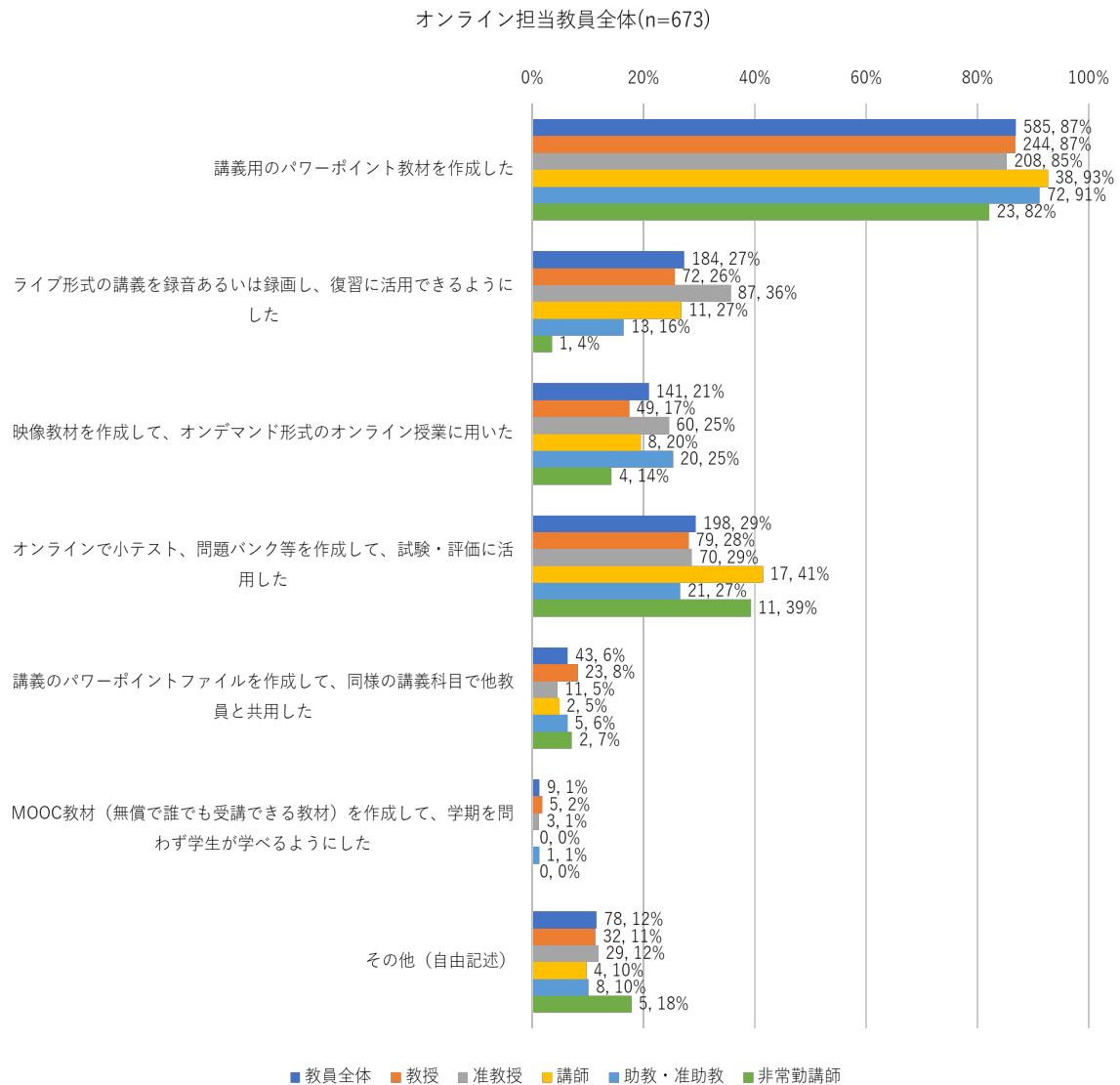
非常勤講師(n=54)



今後のオンライン授業の一部実施に対しては、肯定的な割合 70%に対して、否定的な割合 16%であった。また、職階による顕著な差は見られなかった。

【教材作成に関して】

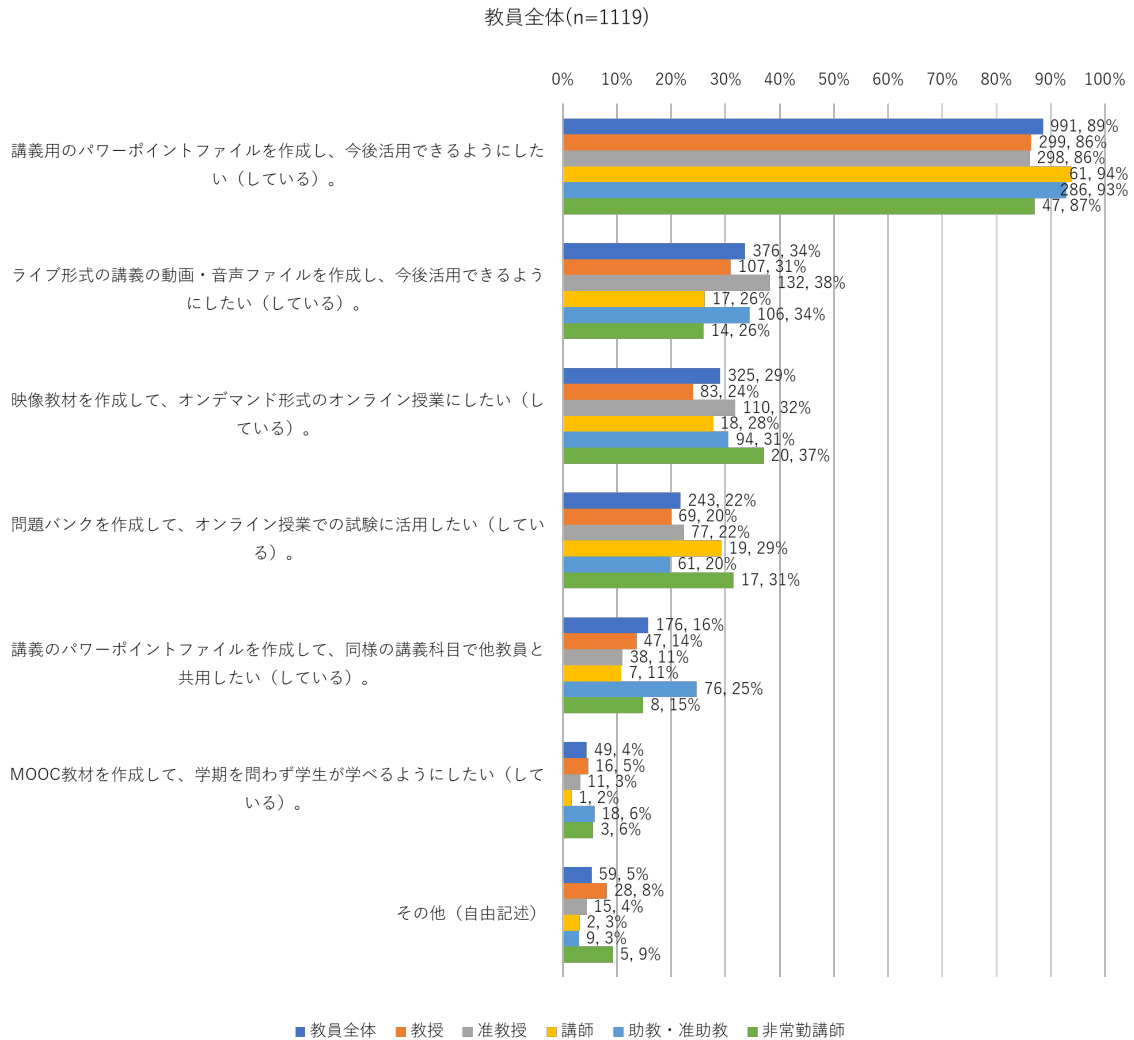
- ⑭ <質問>あなたが2020年度春・夏学期等のオンライン授業において作成し、授業に用いた教材として当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



オンライン授業の準備として、80%以上の教員がパワーポイント教材を作成しており、また、3割の教員がオンラインでのテスト(小テスト、クイズを含む)を活用した。

【教材作成に関して】

- ⑮ <質問>今後の教材作成について、あなたの考えが当てはまるものを、以下からすべて選んでください。(複数回答可)

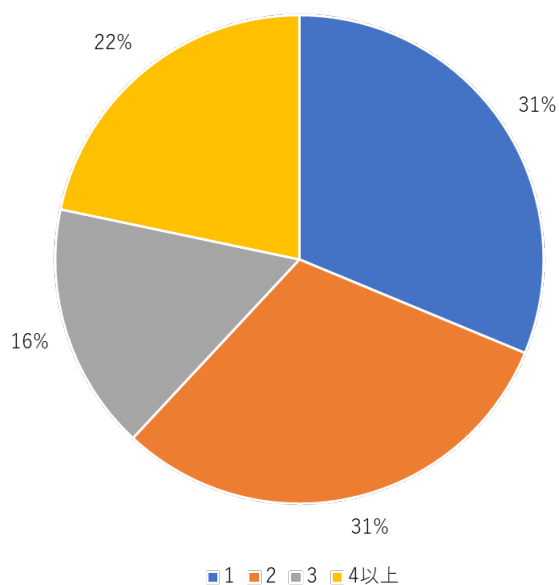


今後の教材作成に関しては、約30%が講義の録画や映像教材の作成を指向している。しかし、パワーポイントファイルの講義科目担当教員間での共有については消極的(11~25%)であった。

【授業の実施形態】

- ⑩ <質問>2020 年度春・夏学期等に代表教員として担当した授業の数を選んでください。

授業担当教員全体(n=691)

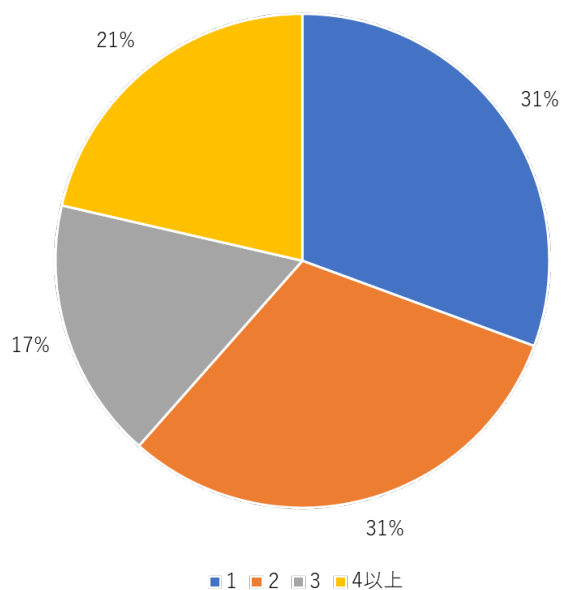


前期に代表教員として担当した授業の数は、1科目と2科目がほぼ同じ割合で31%、一方4科目以上が22%と、教員間でも差があることがわかった。

【授業の実施形態】

- ⑰ <質問>2020 年度春・夏学期等に代表教員として担当したオンライン授業の数を選んでください。

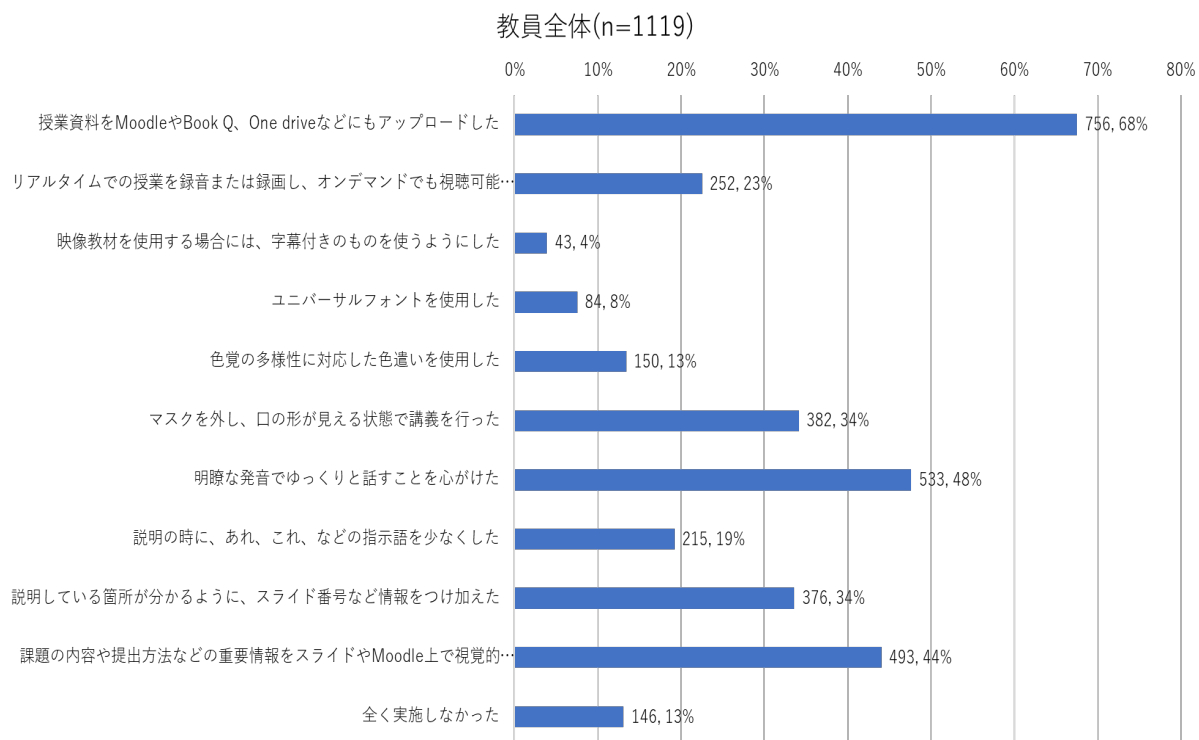
オンライン授業担当教員全体(n=673)



前期にオンライン授業を代表教員として担当した授業の数は、1科目と2科目がほぼ同じ割合で31%、一方4科目以上が21%と、教員間でも差があることがわかった。前問と合わせて、ほぼすべての授業がオンラインとして実施されたことが伺えた。

【ユニバーサルデザイン・合理的配慮関連】

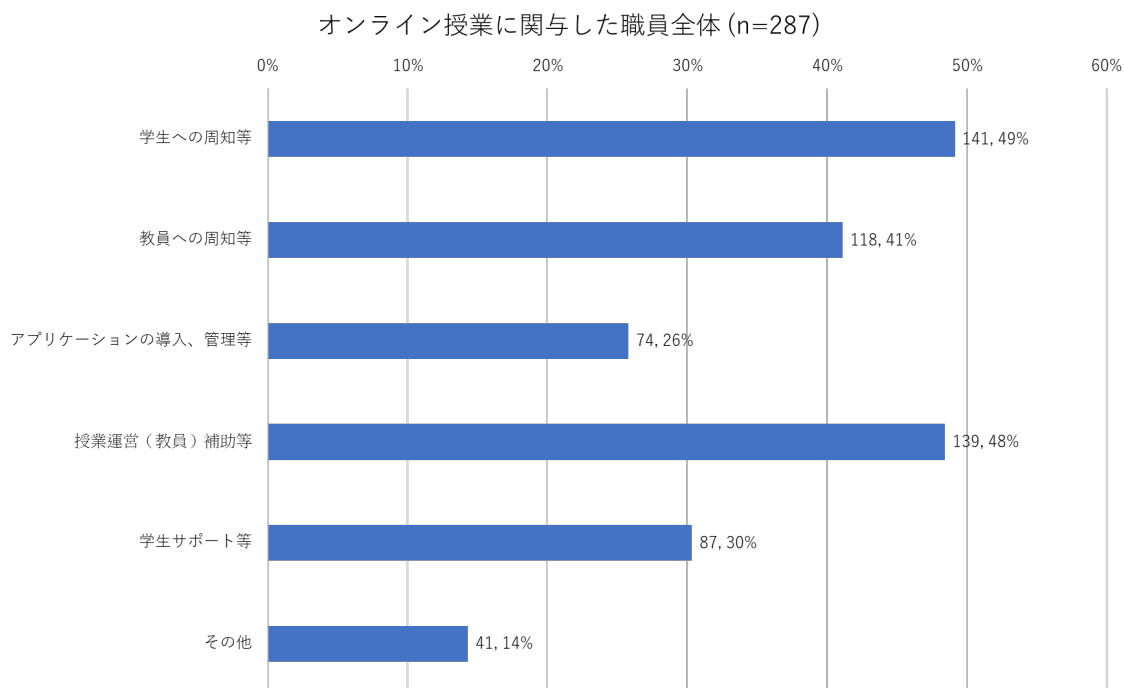
- ⑱ <質問> 以下はオンライン授業におけるユニバーサルデザインや合理的配慮の一例です。春・夏学期等で担当された授業等において、合理的配慮申請の有無にかかわらず実施した項目をすべて選択してください。



ユニバーサルフォントの使用（8%）、色覚の多様性に対応した色遣い（13%）、説明時の適切な指示語の使用（19%）など、総じて値は低く、ユニバーサルデザインの観点からは、まだ十分に対応できていない観点が散見された。これらの周知、実施は今後の課題であると思われる

【事務職員、技術職員等への質問】

- ⑱ <質問>『オンライン授業の導入や実施に関与しましたか。』に、「はい」と回答された方に伺います。その関与された内容についてお聞かせください。(複数回答可)

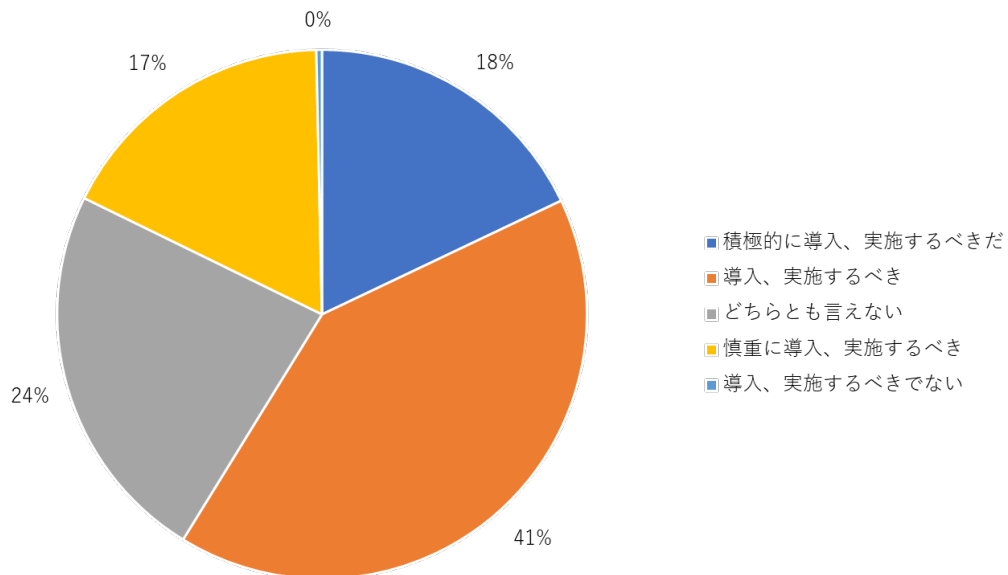


オンライン授業に関与した職員は、「学生への周知」や「教員への周知」「授業運営補助」での関与が多数であった。

【事務職員、技術職員等への質問】

⑳ <質問> オンライン授業の導入、実施することについての意見をお聞かせください。

職員全体 (n=1740)



職員全体の意見としては、オンライン授業の実施に積極的が 59%、消極的が 17%と、全体としては積極的と見受けられた。

自由記述項目への回答に対する分析

(自由記述項目 1) 遠隔授業の実施に関して大学に求める改善点

◇ 質問項目

オンライン授業に対する要望：

今後のオンライン授業の改善のため、大学としてどのような準備や改善、サポートを行っていくと良いと思われますか。オンライン授業の良い点、オンライン授業の問題点、実際に学生から指摘されたオンライン授業の問題点や具体例、さらに、オンライン授業を実施するにあたっての大学に求める改善点をそれぞれ簡潔に 100 字以内でご記入ください。

◇ 主な回答内容

通信環境に関して

- 大学ネット環境の改善
- 機器の購入に対する支援

遠隔会議ツールに関して

- ライセンスの購入
- 使用されるソフトを一元化

学内 LMS に関して

- 応答速度の改善（利用が集中すると動きが悪くなる）
- インターフェイスの改善
- 利用マニュアルの整備
- 授業資料、レポート提出などのアップロードするときに見える容量の増加
- LMS の一元化
- 履修登録と LMS の間の連携機能の追加
- オンライン会議ツールとの連携機能の追加

授業運営（教授法、授業資料の作成、評価方法）に関して

- 講義資料作成に対する支援（手書きノートをパワーポイントに転換するなど）
- 遠隔授業に関するグッドプラクティス、ティップス、評価方法などの提供
- 授業資料の使用に関する著作権の問題の解消
- 遠隔試験の実施体制の整備、遠隔試験のカンニング対策
- 評価方法に関する情報提供
- 各教員はレポート課題の安易な設定は慎むべき（学生の負担が大きく、他の授業にも悪影響を与える）

学生に対する支援

- 学生のネット環境の公平性の確保（各学生に対する通信環境整備に対する支援）
- 通信環境整備（通信環境、PCのスペックなど）に関する告知を入学前から行うべき
- LMS上の出席のとり方が分からない学生が多い

非常勤講師に対する支援

- 自宅で授業を行うときの問題（静かな場所の確保、通信環境の整備、祝日だった場合の育児など）の解消
- 授業録画、配信に関するテクニカルサポート

その他の職階別、部局別分析において、特記すべき内容はない。（「全員」と大差ない。）

（自由記述項目2）遠隔授業に関するグッドプラクティス

◇ 質問項目

本学で実施されたオンライン授業でグッドプラクティスの事例として推薦できる授業などがありましたら、教えてください。自薦他薦を問いません。また、学内でのオンライン授業の改善のために情報共有することも視野に入れています。

a)開講部局等、b)講義名、c)講義担当教員名

自由記述への回答については、ここでは省略します。

オンライン授業のグッドプラクティス収集の結果は、インタビュー記事や動画として以下で公開していますので、併せてご参照いただければ幸いです。

九州大学教育改革推進本部：<https://ueii.kyushu-u.ac.jp/pages/online-lessons.php>

九州大学基幹教育院次世代型大学教育開発センター：

オンデマンド型：<https://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~cfde/archives/1297>

リアルタイム型：<https://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~cfde/archives/1335>

新しい生活様式のもとでの大学授業の実態と意識に関する全学調査

2. 教職員調査 報告書

・調査実施・取りまとめ

九州大学 授業等の在り方に関する検討WG

野瀬 健、鈴木右文、島田敬士、岡田義広、小湊卓夫、木村拓也、長沼祥太郎
学務企画課 庄司祐介、(オブザーバー：情報システム部情報企画課 山口 誠)

・協力者

教育改革推進本部 鄭漢模 (アンケート実装・分析協力)

教育改革推進本部 淵上佑子 (アンケート実装・図表作成協力)

大学院理学府 古賀一成 (教職員アンケート 分析・図表作成協力)

ご協力ありがとうございました。